

POM²ステッカーで地雷除去キャンペーン
タイ・カンボジア国境付近における地雷原調査

総合政策学部 2年 畝川知紗

1.活動の日時・場所・参加者

日時：2012年8月3日～9日

場所：タイ（主にブリーラム県・スリン県・サケオ県アランヤプラテート郡）

参加者：香川佳広、中野えみり、今村和人、畝川知紗、杉浦未来、宮地茉萌（計6名）

2.活動の概要と目的

POM²は「The Problem Of Mines is the Problem Of Mine.（地雷問題は、私たちの問題だ。）」という基本理念のもと、ステッカーを媒介として地雷除去支援を行っている学生団体です。

本活動の目的は大きく分けて3つあります。まず POM²ステッカーで地雷除去キャンペーンの支援先であるタイの地雷除去団体 PRO (Peace Road Organization) を訪れ、寄付金が地雷除去費として適切に使われているかを確認することがあります。次に今回重視した目的としては、現地の人との対話を通じて現地と日本の寄付者との新しいコンタクトポイントをつくることです。最後に、今回初めて現地を訪れる POM²のメンバーのモチベーションに変化を与えることが挙げられます。

4.活動の成果

[1]映像資料・写真資料の拡充、PRO との連携強化

地雷除去作業のデモンストレーション、過去に地雷除去が行われたサドックコックトム寺院の2012年8月現在の状況など、日本では確認しづらいが、寄付者にご覧いただくべき映像や写真などの資料を多数撮影することができました。これらの映像や写真に関しては、今後、編集作業などを行い、イベント出展時などに来場者がより具体的に地雷問題をイメージできるツールとする予定です。

また支援先である PRO と POM²との情報に関して連携強化を図り、PRO リーダーである Ruangrit Luenthaisong さんと交渉し、日本の寄付者と地雷問題との新たなコンタクトポイントの素材として、現地での地雷除去活動の様子や発見された地雷の情報を PRO から POM²に提供していただけることになりました。今後の作業としては、新たな接点の見せ方についてメンバー間でブラッシュアップし、それを実装することにより、寄付者がより具体的に自らが行った寄付の実感を期待することができます。

[2]新プロジェクト地ブリーラム県での現状確認

PRO から新プロジェクトの Project Briefing を受け、地雷除去が実施される予定であるブリーラム地方を訪れることで、地雷除去活動前の現状確認ができたため、POM²ウェブでの正確な情報発信が可能となりました。

[3]GLOBE PROJECT との交流

同じPROを支援する日本の地雷除去支援団体であるGLOBE PROJECTのメンバーと行動を共にし、日本において今後の協力体制を整えることができました。

[4]過去に地雷除去が行われたサドックコックトム寺院への訪問※

過去に地雷除去が行われたサドックコックトム寺院を訪問し、地雷が除去された土地の「今」を確認しました。今回はカオプラヴィーハン遺跡を訪問することができなかつたため、得られた情報は多くはありませんでしたが、「今」（地雷除去後）を寄付者にも伝えられれば、というメンバーの思いの変化を感じることができました。

[5] POM²の活動の意義の再確認

地雷が実際に存在するタイ現地において、普段日本で活動する中では感じとり難い、「地雷問題は私たちの問題だ」という言葉の本質的な意味をメンバー内で議論し合うことで、「地雷除去に取り組むPROとPOM²はチームである」という考えをPOM²メンバー内で共有することができ、特に現地へ初めて訪れるメンバーの地雷に対する問題意識が漠然としたものから具体的なものに変化するのを感じられました。これらは今後活動を継続していく上で財産となるメンバーのモチベーションの向上に大きく影響することが期待できます。

※今回、過去にPOM²が1万㎡分の地雷除去支援を行ったカオプラヴィーハン遺跡への訪問を望んでいましたが、近年のタイとカンボジアとの紛争の影響により、訪問予定日に寺院内への立ち入りが禁止されてしまったことから、PROリーダーがツアーメンバーの安全を考慮して訪問を中止したため、現地行きを断念せざるを得ませんでした。それに伴い、同遺跡・その周辺で実施する予定だった生活者へのインタビュー調査も行うことができませんでしたが、かわりに新プロジェクト地の訪問を行いました。



[PRO・GLOBE PROJECT・POM2の集合写真]

5.謝辞

今回タイ・カンボジア国境付近における地雷原調査を行う際、現地でサポートをしてくださったPROの皆さまの御陰で安全に現地調査を行うことができました。また、指導してくださった櫻田周三先生、助成金をいただいた湘南藤沢学会様に厚く御礼申し上げます。